



日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

AUGUST 2019
REPORT MAGAZINE

会報誌 vol. 53 no. 5

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

JAIPサマーパーティー2019

去る2019年7月12日（金）に2019年度のJAIPサマーパーティーが開催されました。これまでJAIPのサマーパーティーは新橋の第一ホテル東京にて行われていましたが、今年の会場は神田神保町の日本出版クラブビルでした。以前は神楽坂にあった日本出版クラブですが、2018年8月に神田神保町の新しいビルに移転しました。会場のある3階までエスカレーターで上がりますと、目の前には「クラブライブラリー」と呼ばれる天井高8メートルの壁面書架がライトアップされており、まさに洋書協会のイベント会場に相応しいという雰囲気でした。

午後6時に司会である文化厚生委員会委員長の山田氏（トライアログ・エデュケーション）のご紹介により、理事のお一人である三善の阿部氏から開会のご挨拶がありました。そして理事長のグレシャム氏（MHM）の乾杯で会がスタート。今年の参加者は計23社63名で、昨年（28社77名）と比べると人数が減ってしまい、いつもより寂しい感じでしたが、皆さんお酒が入ると会話が弾み、例年通り盛会となりました。

私自身は今回で3度目の参加ですが、参加する度に知り合いの方が増えてきて、会場を歩いていると時々声を掛けていただけるようになり、ようやくJAIPのメンバーに仲間入りができたのかなという感じがいたしました。

会の途中には文化厚生委員会で企画された「チーム対抗ジジ抜きゲーム」が行われました。去年のサマーパーティーもそうでしたが、ランダムにチーム分けされて、まずは名刺交換をしてください、と言われます。サマーパーティーに参加しても、なかなか知らない方と名刺交換をするのは勇気がいるので、これはとてもいい趣向だと思います。ゲーム



のルールはテーブル別に振り分けられた参加者同士でトランプのジジ抜きをし、最初にゲームを終了させたチームがチーム優勝、各チームで最後にペアにならないカードを持っていた方が勝者となるというものでした。

各チーム開始の合図とともにどんどんとお互いのカードを引き合い、手札のカードを減らそうとするのですが、なかなか揃えられず苦戦しているチームもありました。会場には色々な役職の方がいらっしゃいましたが、皆さんカードを引くたびに一喜一憂していて、微笑ましい光景でした。そんな中で私のチームは2番目にゲームを終了させることができ、各チームで最後にペアにならないカードを持っていた方々が見事賞品の図書カードを獲得されました。

ゲーム終了後、同じチームになった方とお話をしてみると、お互い共通のお客様を以前に担当していたことが判明し、意外な接点も発見することができました。

会の最後には丸善雄松堂の矢野社長から挨拶があり、閉会となりました。洋書協会の会員同士が大勢集まるイベントはあまりありませんが、業務上外出

の少ない私にとってサマーパーティーは色々な方と知り合い、情報を交換できる絶好の機会となっています。まだサマーパーティーに参加されたことがない方、特に若い方々には是非次回以降参加していただき、今後の会を盛り上げていただきたいと思います。

(ユサコ株式会社 森薫)

理事会報告 2019年7月12日(金)

1. 予算状況

今回、四半期の締めにて事務局より予算推移状況の報告があった。対予算で若干の余剰もあったがほぼ、予定通りということを確認した。

2. 各委員会報告

- 総務：委員会開催前のタイミングにつきとくに具体的な案件はなかったが、今後のセミナー開催などについて立案予定
- メディア・広報：8月号発行に向けて取り組み中
- 文化・厚生：今後の新企画について今後検討予定。野球観戦などの話しも出た。

- 事業：神保町ブックフェスティバルへの出展取りまとめについて今年も行う旨の報告があった

3. その他

- グレシャム理事長から協会内でサブグループ(Special Interest Group)を結成するなどの案が出た(ELT関連グループなど)
- また「洋書の日」などを申請してはとの案など、今後協会発展、新規会員獲得に向けたブレインストーミングが行われた
- 次回の理事会までに、各理事にて案を持ち寄ることとなった

第4回シネマクラブレポート

日本洋書協会主催の映画鑑賞会にお誘いいただいた時、「ぜひ！」と能天気なお返事をいたしました。その時はまさか早々に貴紙にてレポートを書かせていただくことになるとは露ほども思っておりませんでした。文章を書くことが減法苦手な私ですので、書いている今も唸りつつキーボードの上を指が彷徨っています。情けない執筆者ですが、せっかくいただいた機会なので、私なりに今回鑑賞した映画について感じたことを書かせていただきます。あ、ネタバレがひどいです！鑑賞予定の方はご注意ください(笑)

『ビリディアナ』は、1961年のスペイン映画で、ルイス・ブニュエル監督、主演はメキシコの女優シルビア・ピナルです。この映画はカンヌ映画祭でグ

ランプリを受賞するも、スペインで長らく上映禁止の憂き目にあいました。

映画の主人公ビリディアナは美しき修道女。彼女が叔父ハイメの屋敷を訪れるところから、物語は始まります。亡き妻そっくりに美しく成長したビリディアナを一目見たハイメは、彼女を我が物にしたいと暗い欲望を抱いてしまいます。神への深い信仰心と愛ゆえに一刻も早く修道院に帰りたいビリディアナとそれを阻もうとするハイメ。前半はこの二人の危険なやり取りが続きます。ビリディアナは終始頑な態度なのですが、これがまた余計に彼女の美しさと魅力を倍増させちゃうんですね！逃げれば追いたい男心をくすぐります(笑)。堅牢な鎧のように隙のない出で立ちが、彼女の色っぽさ、美貌、滑ら

かな肌や女性的な体つきをより際立たせて、かなりドキドキしてしまいました。結局ハイメはビリディアナへ狼藉を働いてしまい、その絶望から自死を遂げます。この事件のショックから信仰の世界に深く潜りこんでしまうビリディアナ。彼女は修道院にも戻らず、自らのやり方で神への愛を示そうと、救済と自立支援のために貧者や浮浪者を屋敷に招き入れます。私には彼女を見つめる彼らの目に何やら昏い光が宿っているように見えました。ビリディアナ自らが管理人となり彼らとの交流を深めていく、ここから後半の物語。そうして少しずつ、少しずつ彼女の人生の歯車が狂っていきます。

少し横道に反れますが、この映画、聖と俗、愛と死、男と女、富と貧など相対するテーマがわかりやすく描かれている一方で、物語のキーワードとなるような映像が幾度となく目に留まります。「縄跳び」はハイメの死を、「猫と鼠」はハイメの息子であるホルヘに墮ちてゆく女中を、「解放された犬と、繋がれたまま走らされている犬」は善行の無意味さ、「燃やされた茨」はキリストの茨の冠の消失。つまり俗の勝利を暗示しているように思います。(的外れかもしれませんが)私は仕事柄キリスト教史やキリスト教美術、聖書に触れる機会が多いので、全体的にキリスト教の救済とその無力さをそこはかとなく感じました。

閑話休題、お話の方に戻ります。彼女のその愚直なまでのひたむきな信仰心と奉仕精神は、結局誰からも顧みられず、踏みにじられてしまいます。屋敷住まいの浮浪者たちは、家人不在の本邸に押し入って、飲み食い散らかし、好き放題の乱痴気騒ぎ。彼女の「偽善」(とあえて書きますが)を嘲笑うかのような暴挙に出ます。その滑稽で愚かな様は、ネー

デルラントの画家、ピーテル・ブリューゲルの風刺画を見ているようでした。病人、老人、姦しい女たち、盲人など、なんだかそのままブリューゲルの絵の登場人物のようです。最後の写真撮影のシーンを見て、なるほどこれは上映禁止になるなあ(ましてやスペインは敬虔なカトリック教国だし)と納得。図をご覧ください。あとで調べたところ、このシーンが上映禁止となった最大原因だそうです(やっぱり)。さらに彼女を襲おうとする不屈き者も現れて、散々な目に遭ってしまいます。まさに「善の敗北」。ビリディアナは哀れな女性です。(そこがまた美しいのだけど)結局彼女は何度となく現実(俗)を前に酷く打ち負かされてしまうのです。ただ自ら信じる神への道(聖)を進もうとしただけなのに。

ラストはあえて語りませんが(今更意味ないですね笑)結局彼女は聖女から普通の女へと変わってしまいます。きっちり束ねた髪と隙の無い服装が一変して、無造作に髪をおろし、服装もなんだかゆるゆるしています。めちゃくちゃ隙だらけです!神を前に祈るのではなく、男と共にカードゲームに興じてしまうビリディアナ。聖から俗へと成り下がり、諦観した彼女の姿は最初と変わらずやはり美しかったです。

つらつらと勝手に解釈とネタバレを書き連ねただけですが、大変興味深くこの映画を鑑賞することができました。とにかく主演のシルビア・ピナルの美しさが半端ない。それだけでも鑑賞の価値ありです(笑)。この会で初の鑑賞作品がこの映画でよかったと心から思います。お誘いいただきありがとうございます。

(丸善雄松堂株式会社 小倉有紀子)



我が社・わが街

第20回 神楽坂

株式会社三友社

志村 知英

会報、ダイレクトリーを作成しております株式会社三友社でございます。弊社は地下鉄東西線神楽坂駅から徒歩で5分、神楽坂駅へ向かいます場合は歩いて7分となります。行きと帰り時間が違いますのは、途中で急峻な坂があるためです。赤城坂と申しまして、赤城神社の側にあるのでこの名があるそうです。

その坂を上りますと赤城神社がございますが、坂の途中に神社へ向かう階段がございます。この階段は、昨年、ドラマ「僕とシッポと神楽坂」の中で、「階段を上ると、そこは『坂の上動物病院』」という設定で使われておりました。赤城神社は赤城の名の通り赤城山の赤城神社が由来のようで、神社の御由緒によれば「群馬県赤城山麓の大胡の豪族であった大胡彦太郎重治が牛込に移住した時、本国の鎮守であった赤城神社の御分霊をお祀りしたのが始まりと伝えられています」とのことです。創建は1300年。江戸時代には神田明神、日枝神社と並んで「江戸の三社」と称されていたそうです。平成22年9月には、只今建設中の新国立競技場を設計した建築家の隈研吾氏による本殿が竣工し、近代と歴史がみごとに融合した佇まいを見せており、毎年歳の初めに弊社はこの神社の神殿で1年の無事を祈願しております。

さて、神社を先に進みますと神楽坂駅、その前の通りが神楽坂通り。この通りはお昼を境に午前は下り一方通行、午後を上り一方通行となります。日本で唯一とも思われる逆転式一方通行。入社当時は慣れていないため逆送し、交番の警察官が飛び出してきたことがございました。この坂、何故逆転式一方通行になったのか？あくまでも噂ではございますが、故田中角栄元首相が目白の自宅から国会議事堂に向かい、夜の帰宅に便利のため、この方式ができたとか・・・。

では、神楽坂を飯田橋方面に下って参りましょう。ここで目を引くのは、通りに面して建っております、毘沙門天 善國寺。文禄4年(1595年)に創設された日蓮宗のお寺です。寛政4(1792)年の火事により、それまでの麴町から神楽坂へ移転してきたそうで、毘沙門天様を祀っています。初代住職は池上本門寺十二代目の貫首を勤めた佛乘院日惺上人。徳川家康公と以前から親交を持っていたとのことで、家康公が江戸城に居を移した際に、祖父伝来の毘沙門天像を前に天下泰平のご祈祷を修したそうです。毘沙門天は

財宝の神。お目にかかりたいと思われた方、次回の御開帳日は令和元年9月2日(月)の9時から17時頃です。普段は御簾がかかっていてご覧になれないそうなのでご注意ください。(善國寺ホームページより)

そして、これからの季節、粋な路地探索、おいしいグルメは数々ですが、何ととっても「神楽坂まつり」が1年で最も賑わうイベントです。毘沙門天を中心に開かれる「ほおずき市」に始まり、最後は神楽坂通りを車両通行止めにしての阿波踊り大会。今年の開催日は7月26日(金)、27日(土)でした。暗くなってから、神楽坂通りを下から上へ、2日間で延べ約3500人のプロアマ交えた踊り手さん達が踊りながら車道を登っていきます。歩道はたくさんの人で溢れかえり、この日は会社帰りに飲み物片手に踊りを見ながら神楽坂駅から飯田橋駅まで歩くのが年に1度の楽しみです。今度の週末、神楽坂散策をしてみたいはいかがでしょうか！



わたしの職場

リレー連載 ● 第7回

オックスフォード大学出版局(株)
カスタマーサービス・トレードセールスアシスタント

加藤 史寛 (Fumihiro Kato)

— オックスフォード大学出版局の仕事紹介 —

皆様はご自身のお仕事に誇りを持って取り組むことができますでしょうか? 私は入社1年目ですが、誇りを持って仕事に取り組むことができます。この度は弊社の仕事紹介とのお話いただきましたので、大きく3つ(弊社の理念、日々の業務、出張時の業務)に分けてご紹介させていただきます。

1つ目に弊社の理念についてお話しさせていただきます。オックスフォード大学出版局は、英国オックスフォード大学の一部局で、学術、研究、教育の振興に寄与するという同大学の目的を達成するために世界規模の事業活動を展開しております。世界各国において質の高い出版および出版物の流通を行うことで、幼児・児童の語学学習から学術研究の分野まで幅広くサポートし、全世界における教育活動に全面的に貢献することが目標となります。16世紀初頭に設立され世界で最も歴史のある大学出版局の一つであるオックスフォード大学出版局は、現在50か国に約6,000名の職員を有する世界最大規模の大学出版局として年間6,000タイトル以上の出版物を刊行しております。教育関連情報の提供だけにとどまらず、様々な方法で教育分野に貢献するため、発展途上で学術情報のオンライン無料提供サービスを実施するほか、毎年世界各国で数多くの教師向けワークショップを開催するなど幅広い活動を行っております。また年間利益の一部を大学生の奨学金や研究活動のために提供しており、企業利益を還元することで教育分野を支援するという使命を果たしております。日本支局に関しましては、1957年に東京に拠点を構えて以来、日本の教育の発展に資するため、先生方や学習者の皆様の声に耳を傾け、世界水準の教材や指導法をご紹介して参りました。部門は3つございまして、英語教育教材部門(ELT)、エデュケーション(Education)部門、学術専門書・一般書部門(Academic)となります。経験豊富なバイリンガルのコンサルタントが、教材選定のアドバイスや教員研修のアレンジメント、長期的な展望を踏まえたカリキュラムの設計など、幅広いサポートを通して活気ある教育現場の創造とグローバルに活躍する人材の育成をお手伝いさせていただきます。研修、イベントも積極的に行っており、第一線で活躍する専門家らを招聘し教員研修やワークショップ、セミナー、シンポジウムを開催し、教育に携わる先生方の知識の向上やスキル開発をサポートするほか、志を同じくする教育関係者の交流の機会を提供致しております。

2つ目は日々の業務についてお話し致します。私は英語教育教材部門のCustomer Services and Trade Salesに所属しておりまして、英語の先生、書店員様、教材をお使い

頂いているお客様からのご質問などにお電話やメールでお答えさせて頂いております。外国人の方も多く、英語でのお問い合わせにも対応しております。お客さまの状況によって、お問い合わせ内容は様々でオンライン教材の使い方や、授業にあった教材の相談、在庫・納期の確認など、その場で確認をしてお答えする為、難しい一面もございまして、やりがいも感じております。また、お取引先の書店様を訪問し、新刊のご紹介や売れ行きの確認、売場づくりなどをご提案致します。しかしながら、まだ書店様の訪問は始めたばかりで分からないことも多く、書店員様に色々ご教示頂きながら日々勉強させて頂いております。年複数回、イベントなどに参加することもございまして、その際には、先生向けのセミナーや勉強会、書店での読み聞かせイベントなどのスケジュール調整、当日の運営サポートを担当しております。余談にはなりますが、社内には、アメリカやイギリス出身の社員が3割を占めているため、彼らとのコミュニケーションを通して、英語力も深められるので、英語力が自然と身に着く環境に日々身を置けることに感謝しております。

3つ目は出張時の業務について。ここまで読んで頂いている方がどれほどいるか分かりませんが、昨年度経験した体験談をお伝え致します。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、弊社は伝統的(?)にお酒が強い社員が多く在籍しております。昨年度Oxford Teaching Workshop Series(児童英語を教えている先生方に向けたイベント)に参加するために九州へ出張した際には、地元の料理を堪能することに加え、地元のお酒も多く頂きました。そのときの出張は2泊3日でしたが、毎晩他の社員と食事を共にし、お酒も頂きました。どんな夜を過ごしても、次の日のイベントではキリッと仕事をしている先輩社員の姿を見て、当たり前であると同時に(前夜の晩餐のことを知っている分)そこにプロ意識を感じ、しっかり見習おうと心に強く思ったのを今でも覚えております。オン、オフの切り替えが上手にできるという事は弊社の強みなものかもしれません(笑)。

最後になりますが、自身の仕事にやりがいを感じたり、誇りを持ったりすることは、色々なプレッシャーがある複雑な現代において、本当はとて難しい事だと思います。そんな中で、自身の仕事に楽しみや、やりがい、誇りを見出せる人が人生を豊かに過ごすことができるのかもしれない。仕事紹介として今回お話しさせて頂きましたが、皆様にはどのように映りましたでしょうか。この記事を読まれた方と一緒にお仕事ができることを、心より楽しみにしております。



START AT THE SOURCE.

No other resource gives you more insights from more perspectives. When you explore Gale Primary Sources, you'll discover original, first-hand content — meticulously cross-referenced to bring the facts into focus, and the information to life in remarkable new ways.

Gale Primary Sources



日本洋書協会会報 vol.53 No.5(通算560号) 発行日2019年8月1日 編集者 遠藤 尚子

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523
URL:<http://www.jaip.jp> E-mail:office@jaip.jp